

第27期第2四半期 **株主通信**

2009 Business Report 2009.1.1-2009.6.30

 証券コード：3386

Inspiration for Life Science

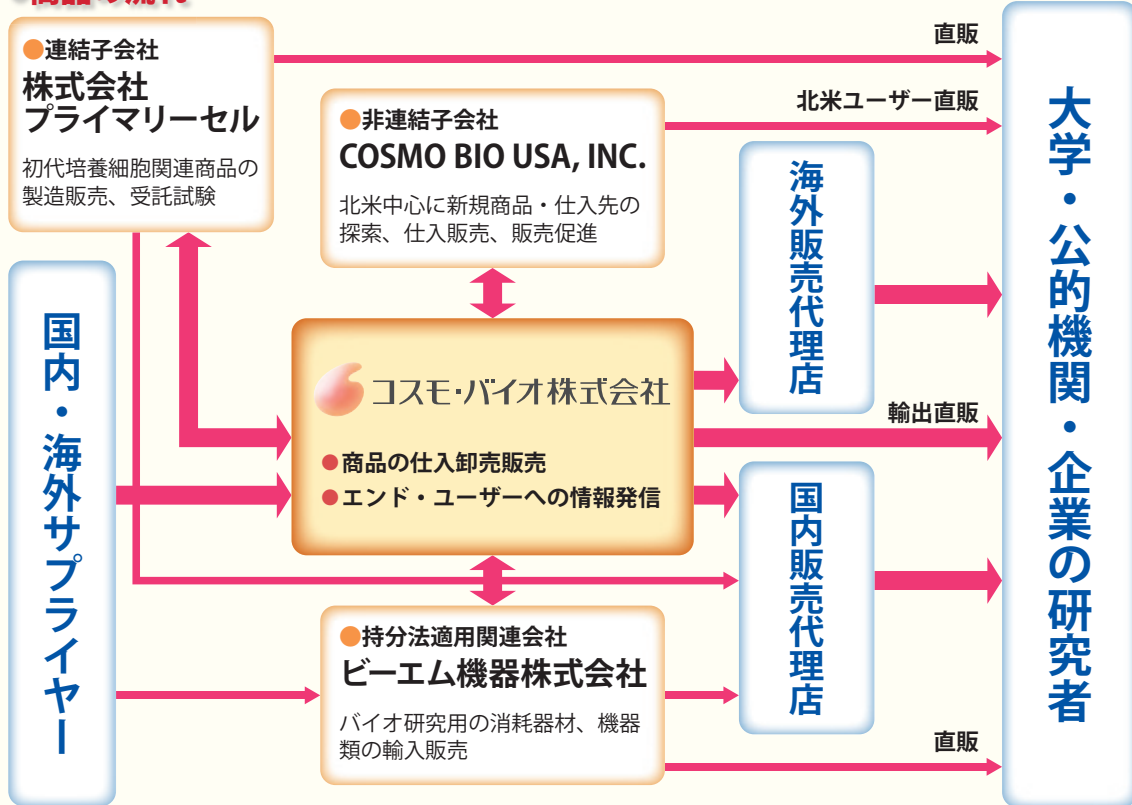


人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

ビジネスモデル 「バイオ研究を支援する専門商社」

●商品の流れ



●膨大な商品・情報と多様なユーザーニーズのマッチングの場の提供

- ユーザーニーズに対応できる100万以上の豊富な商品
- 商品情報をデータベース化し、ユーザーが自在に検索可能
- 各種プロモーションツールによる専門性の高いサービス・情報の提供

メーカー
豊富な商品

プロモーションツール

営業力

マッチング

情報力
(データベース)

技術力
(専門知識)

コスモ・バイオ株式会社

ユーザー
多様なユーザー
ニーズへ対応

グローバル化とブランド力創造を図り コア事業を一層強化。 高付加価値事業の育成も進め、 次なる成長ステージを目指します。

代表取締役社長
笠松 敏明



Q 2009年度、笠松敏明新社長を中心とした新体制がスタートしました。社長就任後、特に力を入れて取り組んでおられることについてお話しください。

景気がようやく回復期に入ったとの見方がなされるようになったとはいえ、市場環境が決して良好とはいえない状況の中、業績を伸ばすために最優先すべきことは、コア事業の強化であると考えています。具体的な対策の1つ目として、まず新規仕入先の開拓に取り組みました。2009年12月期第2四半期連結累計（1-6月）で、海外主要仕入先の一部が日本現地法人へ販売ルートの変更を行ったことによる取扱額の減少幅は、売上高全体の13%に相当する大きな打撃を受けました。しかしながら、この落ち込み分を補完するため、40数社の新たな有力仕入先を開拓したことで、売上高の減少幅を最小限に抑えることができました。新規仕入先は将来性のある有望企業が多く、長期的スタンスで育成していく方針です。2つ目の対策として、既存仕入先との関係強化に力を入れました。取引先との信頼関係をより強固なものにするため、的確な情報を適切なタイミングで情報発信することや、「お客様の真のニーズを知る」という原点を大切にするため、取引先と接点を多く持つ活動を進めたことで、信頼性の向上につながりました。豊富な商品力と情報力、グローバル展開での先駆性、子会社プライマリーセルを

活用したメーカー機能という付加価値、さらには細胞培養技術など、業界他社と比較した当社の優位性は数多く、今後はこれらの優位性を最大限に発揮して早期に利益貢献する体制を築くことが課題であるととらえています。

Q 業界の市場環境と御社への影響についてお聞かせください。

当社を取り巻くバイオ研究関連市場はかつての成長期のような力強い伸びはなく、ここ数年伸び悩んできました。しかし、今年度は補正予算の恩恵で大学・公的研究機関向け予算は、かなり期待できると見えています。一方で、製薬企業においては、売上高研究開発費率が上昇する中で、試薬や機器の購入は増加しておらず、必要な商品を必要な量だけ購入するという姿勢が顕著になってきました。当社にとっては、顧客ニーズに合った商品をジャスト・イン・タイムで提供する必要性がますます強まっているといえます。中長期的な市場環境について楽観的な見方はできず、人材や技術を求めて海外へ研究活動をシフトさせていく顧客のニーズをとらえ、グローバル展開を進めることが生き残りのかぎになると考えています。当社は、海外拠点であるコスモバイオUSAを活用し、海外向け販売の強化に力を入れています。

Q 2009年12月期第2四半期連結累計の業績及び通期の見通しを上方修正されました。

この要因についてご説明ください。

2009年12月期第2四半期連結累計売上高は27億76百万円、営業利益3億5百万円、経常利益3億17百万円となりました。売上面では、海外有力仕入先の減少分の4割を新規仕入先及び既存仕入先の拡販でカバーすることに努めましたが、今年2月13日に発表しました第2四半期連結累計期間業績予想にわずかに届きませんでした。当社主力のバイオ研究用試薬は、海外からの輸入が大半を占めますが、為替が円高傾向で推移したことにより、仕入原価が当初予想よりも減少しました。これを主因として、利益面は当初業績予想を上回りました。さらに、連結子会社であるプライマリーセル、持分法適用関連会社であるビーエム機器の好調による利益貢献もあり、上方修正にいたりました。通期については、第2四半期連結累計期間の実績を盛り込み、下半期は当初予想通りに推移することを想定して、連結累計売上高は53億39百万円、営業利益3億81百万円、経常利益4億9百万円へ修正しています。

Q 笠松社長がコスモ・バイオの企業価値向上のために目指しておられるブランド力の強化策について、具体的に教えてください。



当社では、ブランド力を広義にとらえ、社会での信用力、お客様からの信頼性、自社ブランド商品の3つに分けて考えています。まず、社会での信用力ですが、企業の内部統制やコンプライアンスを充実させ、信頼される会社であることがブランド力につながると認識しています。新体制へ

の移行に伴い、新たに監査室を設置し、社内監査をはじめ内部統制機能の強化を図り、社員の意識改革に力を入れました。ライフサイエンス分野という社会的意義の大きな事業展開を行っている現状を認識し、CSR活動に意欲的に取り組み、より積極的に社会貢献を果たしていく方針です。今年度も公開講座応援団として11の大学へ協賛を決定しました。お客様からの信頼性では、国内トップの品揃えを武器に、お客様のあらゆるニーズに応えた「商品」と「サービス」、そして「情報」を提供できる体制を構築することが、ブランド力の強化につながると考えています。また、自社ブランド商品の育成は、海外の仕入先が自社で日本に販売拠点を設けるなど取引条件を変更することによる影響を軽減し、売上の安定を図るために不可欠の要素です。当社のブランドは海外でも知名度が向上しており、グローバル展開を図る当社にとって将来の飛躍を見据えて大きなビジネスチャンスにつながると期待しています。

Q 高い成長性が期待される細胞事業の取り組みについてお話しください。

従来の投薬から細胞治療へと、再生医療面を中心に細胞を利用した最先端の治療の研究が活発に行われています。以前は実験動物の細胞が研究対象の中心でしたが、最近ではヒト細胞へと移行してきました。当社グループも、研究のためのヒト細胞の輸入販売や子会社であるプライマリーセルでのヒト細胞を扱った受託サービスを開始しています。これに際し、外部の有識者も加えた生命倫理委員会を発足させ、十分に審議を行いました。

細胞分野の研究の進歩、発展は著しく、これに伴い市場動向もめまぐるしく変化しています。これに対応するためには当社グループ内だけでなく、大学等の研究機関や他の企業とのコラボレーションが必要であると考えています。今年度は財団法人ヒューマンサイエンス振興財団とライセンス契約を締結し、細胞培養技術の導入を図るなど、新たな連携を実現しました。

Q コスモ・バイオが目指す中期的な企業像について お話しください。

当社グループはこれまで商社機能としての商品販売を中心に事業を展開してきましたが、今後はこうしたコア事業を強化しながら、高付加価値事業の育成を図り、さらに周辺事業へとビジネスチャンスを広げていく方針です。高付加価値事業の一つとして、当社の強みである高度の知識を有する人材を活用した創薬支援サービスを展開しています。製薬企業においては、基礎研究から製品化に近い段階の応用研究・開発研究の一部を外部の専門機関へ委託する傾向が強まっています。当社では、こうしたニーズの変化をいち早くとらえ、2005年から創薬支援サービスを展開してきましたが、前年度の約2倍のペースで売上が拡大している期待の成長分野です。また、プライマリーセルを自社研究拠点として活用するメーカー機能の向上にも力を入れてまいります。ライフサイエンス分野は非常に環境変化の激しい業界ですが、変化をビジネスチャンスに結び付け、新たな事業分野の開拓により、力強い成長へと結び付けていきたいと考えています。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要な課題と認識し

ています。継続的な成長に向けての投資や社内留保とのバランスを考えながら、引き続き安定配当を目指してまいります。2009年12月期の1株当たり年間配当は、前期の実績に100円上乘せし、1,200円を予定しています。高水準な配当を維持するためには、業績を向上させ持続的な利益成長を遂げていかねばなりません。今後も財務体質の強化を図りながら、安定した収益基盤を持つコア事業の強化と、高付加価値事業の育成、新たな事業展開としての周辺事業への進出により、利益率の向上を目指します。

株主の皆様におかれましては、当社の経営及び事業に対し、ますますのご理解とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



TOPICS トピックス

財団法人ヒューマンサイエンス振興財団との ライセンス契約締結

財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 厚生労働大臣認定TLOヒューマンサイエンス技術移転センター(HSTTC)と、国立医薬品食品衛生研究所の発明：「培地および培養方法」の出願特許に関するライセンス契約を締結いたしました。

DB Biotech社と日本国内における 独占販売代理店契約締結のお知らせ

中央ヨーロッパにあるバイオテクノロジー企業のDB Biotech社（本社：スロバキア共和国コシツェ州）と、同社が提供する商品及びサービスについて日本国内における独占販売代理店契約を締結しました。

ヒトES/iPS細胞

提供：株式会社リプロセル

ES細胞/iPS細胞は、万能細胞として注目を集め、その将来性が大きく期待されています。再生医療がクローズアップされることが多いのですが、それ以外にも創薬スクリーニングやテラーメイド医療等、多方面での応用が期待されます。

ES細胞/iPS細胞は、*in vitro*で未分化を維持したまま無制限に増殖できることが大きな特徴であり、その後、神経細胞、心筋細胞等、さまざまな種類の細胞へ分化させることが可能です。技術的には、未分化維持培養法、分化誘導（培養）法、さらに遺伝子改変技術に分けられます。

ヒトES細胞の未分化維持培養法については、京都大学の末盛准教授・中辻教授により、生存率が高く効率的な培養方法が報告されています。また、世界初のヒトiPS細胞の樹立が京都大学の山中教授により報告されましたが、その中でも、同様の条件でヒトiPS細胞が培養されています（図1）。以下、ヒトES細胞/iPS細胞の未分化維持培養法について説明します。

ヒトES細胞/iPS細胞の未分化維持培養法はマウスES細胞/iPS細胞と大きく異なります。細胞をシングルにせず、コロニーのまま培養・継代を繰り返す点が特徴です。通常のトリ

プシン処理により細胞がシングルになると、生存率が著しく低下するという問題があります。一方、コロニーを機械的にカットし継代する方法もありますが時間と手間がかかります。京都大学で開発された手法では、特殊な組成の剥離液を加え、ピペッティング操作をするだけで、シングルにならず適度な大きさのコロニーに分かれ、高い生存率での継代が可能になります（図2）。ヒトES細胞の場合、本手法で3年程度、培養・継代を繰り返しても、染色体異常がなく、正常な状態を保っていると報告されています。

また、凍結保存においてもDMSOを用いた場合、生存率が1%以下と極めて低いという問題がありましたが、本手法では、ヒトES細胞/iPS細胞専用の特殊な凍結保存液を用いることで、その生存率は10%程度と高くなり、融解後3~4日で継代可能になります。

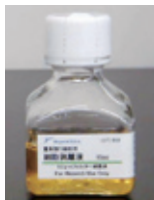
今後、再生医療、創薬スクリーニング、テラーメイド医療等それぞれの分野に応じた最適な培養方法が開発されることで、実用化が加速されると考えられます。

霊長類(ヒト/サル)ES細胞用培養ツール

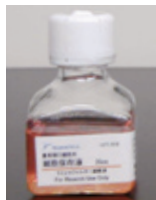
〈当社取扱商品〉



霊長類ES細胞用培地



霊長類ES細胞用剥離液



霊長類ES細胞用冷凍保存液

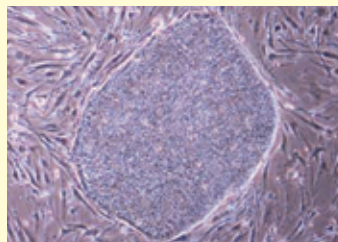


図1 ヒトiPS細胞*
リプロセル社の霊長類ES細胞用培地
(品番: RCHEMD001)+5ng/f bFGFとフィーダー細胞
(MEF)(品番: RCHEFC003)を用いて培養した。
*ヒトiPS細胞株201B7: K. Takahashi, K.Tanabe,
M.Ohnuki, M.Narita, T.Ichisaka, K.Tomoda, and
S.Yamanaka, Cell 131, 1-12 (2007)

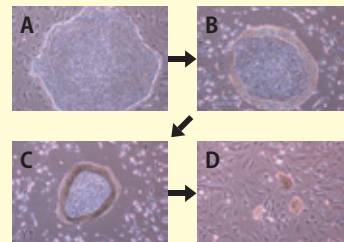


図2 サルES細胞の剥離&継代の様子
(A) 剥離処理前のサルES細胞のコロニー、(B) 剥離液処理後3min: コロニーの周辺部から剥がれ始めている、(C) 剥離液処理後5min: コロニーの剥離がさらに進んでいる、(D) ピペッティング操作の後、継代: 適度な大きさのコロニーに分かれて継代されている。

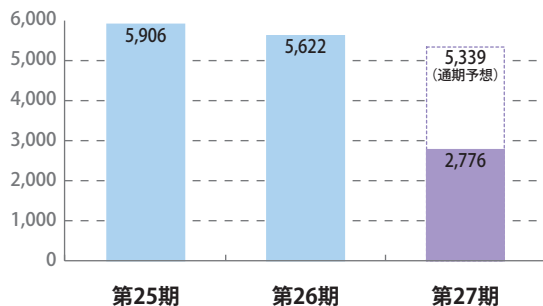
BUSINESS OVERVIEW

事業の概況

連結財務ハイライト

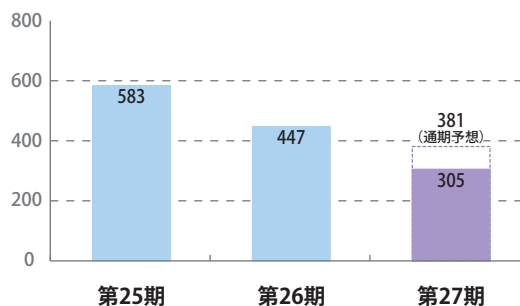
売上高

単位：百万円



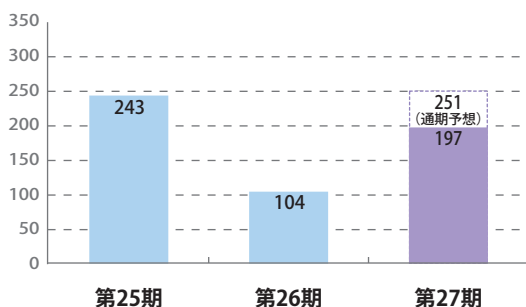
営業利益

単位：百万円

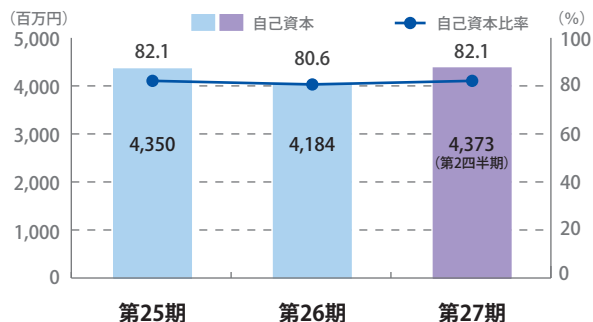


純利益

単位：百万円



自己資本／自己資本比率



*為替レートは第2四半期連結累計期間平均96円／ドル（今期計画100円／ドル）でした。

*会計基準の見直しにより、当期より、従来は営業外費用に計上しておりましたたな卸資産廃棄損は売上原価に含まれています。

FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表（要約）

連結損益計算書（累計）

（単位：百万円）

| 科目 | 期別 | 第27期第2四半期 自2009年1月1日 至2009年6月30日 | 第26期中間期(参考) 自2008年1月1日 至2008年6月30日 |
|----------------|----|--|--|
| 売上高 | | 2,776 | 2,970 |
| 売上原価 | | 1,637 | 1,799 |
| ① 売上総利益 | | 1,138 | 1,171 |
| 販売費及び一般管理費 | | 833 | 872 |
| ② 営業利益 | | 305 | 298 |
| 営業外収益 | | 45 | 58 |
| 営業外費用 | | 33 | 50 |
| 経常利益 | | 317 | 306 |
| 特別利益 | | 4 | 0 |
| 特別損失 | | 1 | 281 |
| 税金等調整前四半期純利益 | | 320 | 25 |
| 法人税等 | | 122 | 144 |
| 四半期純利益又は純損失（△） | | 197 | △118 |

① 当社主力のバイオ研究用試薬は大半が輸入品のため、為替レートが円高傾向で推移したことを主因に、仕入原価が当初計画よりも減少し、売上総利益は1,138百万円となりました。

② 販売管理費等の抑制に努め営業利益は305百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算

（単位：百万円）

| 科目 | 期別 | 第27期第2四半期 自2009年1月1日 至2009年6月30日 | 第26期中間期(参考) 自2008年1月1日 至2008年6月30日 |
|--------------------|----|--|--|
| ③ 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 654 | 557 |
| ④ 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △425 | 13 |
| ⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △66 | △151 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | △0 | △0 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | | 161 | 418 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 1,206 | 719 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | | 1,368 | 1,137 |

③ 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前四半期純利益が320百万円になったこと及び売上債権が減少したことを主因に、654百万円の収入となりました。

④ 投資活動によるキャッシュ・フロー
資金運用を目的とした投資有価証券の購入を行ったことを主因に、425百万円の支出となりました。

⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払により66百万円の支出となりました。

連結貸借対照表（累計）

（単位：百万円）

| 科目 | 期別 第27期第2四半期末 2009年6月30日現在 | 第26期末 2008年12月31日現在 |
|-----------------|----------------------------------|------------------------|
| 【資産の部】 | | |
| 流動資産 | 3,909 | 3,927 |
| 現金及び預金 | 1,167 | 1,005 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,427 | 1,728 |
| 6▶ 有価証券 | 829 | 600 |
| たな卸資産 | 428 | 484 |
| その他 | 57 | 107 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 固定資産 | 1,418 | 1,267 |
| 有形固定資産 | 47 | 52 |
| 無形固定資産 | 176 | 180 |
| 投資その他の資産 | 1,194 | 1,034 |
| 7▶ 投資有価証券 | 598 | 432 |
| 関係会社株式 | 320 | 304 |
| その他 | 274 | 296 |
| 資産合計 | 5,328 | 5,194 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 664 | 666 |
| 支払手形及び買掛金 | 368 | 405 |
| 短期借入金 | 20 | 20 |
| その他 | 276 | 240 |
| 固定負債 | 291 | 343 |
| 負債合計 | 955 | 1,009 |
| 【純資産の部】 | | |
| 8▶ 純資産合計 | 4,373 | 4,184 |
| 資本金 | 918 | 918 |
| 利益剰与金 | 2,284 | 2,152 |
| 評価・換算差額等 | △51 | △108 |
| 負債純資産合計 | 5,328 | 5,194 |

6,7▶ 資金運用を目的とした投資有価証券の購入を行ったことを主因に増加しました。

8▶ 自己資本比率は前期末80.6%から82.1%になりました。

CSR

これまでの公開講座応援団では、毎年、たくさんの応募をいただいております。2009年度（第6回）では以下の11団体を採択いたしました。

- ・愛知県がんセンター研究所 高校生のための実験・体験コース「ノーベル賞に輝いた緑色蛍光タンパク質（GFP）で細胞を光らせよう」
- ・秋田県立大曲農業高等学校「博士号教員と一緒にバイオ実験を体験してみよう！ー1日科学者体験講座」
- ・宇都宮大学 中高生のためのバイオテクノロジー体験教室「クローン牛誕生の秘密に迫る！」
- ・大分大学「夏休み子供サイエンス2009」
- ・帯広畜産大学「DNA検査ー米、肉、豆の品種鑑定をしよう！」
- ・九州大学農学部附属農場「体験！農業と食料・環境問題」
- ・高知工業高等専門学校「キャンパスアドベンチャー2009 秋」
- ・東京工業大学生命理工学部 第18回高校生のための夏休み特別講習会「バイオの世界を探検してみよう」
- ・福岡教育大学 小中学生のための科学実験教室「植物バイオの世界」
- ・福島大学「福島大学わくわくサイエンス屋台村」
- ・和歌山工業高等専門学校物質工学科「世界の化学・生物実験 ~Only One : 唯一の存在」

今後も、コスモ・バイオは“明日の科学者”を育てる活動のお手伝いを続けてまいります。



愛知県がんセンター研究所
「高校生のための実験・体験コース」

IR

当社は、投資家の皆様や一般の皆様当社をよく理解していただくため、インターネットホームページにIR情報のページを設け、開示資料や証券情報、よくあるご質問等を掲載しており、随時更新しております。また、一般個人向け会社説明会、アナリスト向け決算説明会を定期的に開催しております。

当社IRページ (www.cosmobio.co.jp/ir/)



ユーザー向け情報発信

インターネット

インターネットホームページ (www.cosmobio.co.jp/) では、100万件以上の全商品検索をはじめ、新商品情報や最新のトピックス等をご紹介します。さらに、お客様のニーズに合わせたメールマガジンの配信も行っております。



カタログ類

当社では2万部以上のカタログを、日本国内の研究者に広く配布し、研究に必要な商品を簡単に見つけることができるようにしております。



ニュース、チラシ類

新商品の紹介等をするコスモバイオニュース（年6回発行）を無料配布し、よりスピーディーでタイムリーな情報提供に努めております。また、注目される研究分野や商品群にスポットを当てた特集ニュース、チラシ類も年数回発行しております。



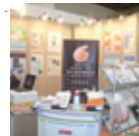
セミナー

当社ではお客様のためのセミナーやトレーニングを行っております。また、販売代理店のスタッフを対象にしたセミナーを、春と秋に開催しております。



学会・展示会

分子生物学会、生化学会、免疫学会、農芸化学会等の学会のほか、海外やライフサイエンス関連の展示会に積極的に参加して商品とサービスのご紹介をしております。



CORPORATE DATA & STOCK INFORMATION

会社概要/株式の状況

会社概要

(2009年6月30日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社

設立年月日 1983年8月25日

所在地 〒135-0016
東京都江東区東陽二丁目2番20号
東陽駅前ビル

資本金 918百万円

事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、
機器、臨床検査薬の輸出入及び販売

従業員数 連結 85名・個別 77名

役員
取締役会長……………原 田 正 憲
代表取締役社長………笠 松 敏 明
専務取締役……………高 木 勇 次
常務取締役……………田 中 知
取締役……………鈴 木 忠
取締役……………櫻 井 治 久
常勤監査役……………村 田 実
監査役……………佐々木 治 雄
監査役……………堀 米 泰 彦

株式の状況

(2009年6月30日現在)

発行可能株式総数 ……………183,616株

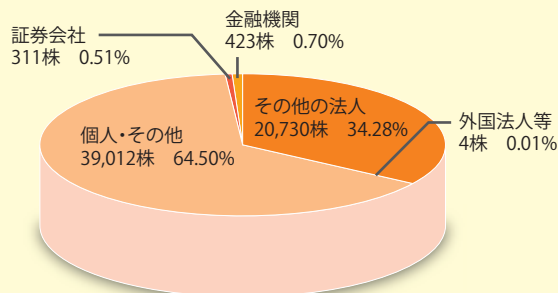
発行済株式の総数 ……………60,480株

株主数 ……………2,397名

大株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
|----------------|--------|----------|
| 東京中小企業投資育成株式会社 | 11,520 | 19.0 |
| コスモ・バイオ従業員持株会 | 6,585 | 10.9 |
| コスモ石油株式会社 | 5,760 | 9.5 |
| 福井 朗 | 3,000 | 5.0 |
| 株式会社ブルボン | 2,937 | 4.9 |
| 原田正憲 | 2,200 | 3.6 |
| 高木勇次 | 1,480 | 2.4 |
| 田中知 | 1,480 | 2.4 |
| 鈴木忠 | 1,480 | 2.4 |
| 柴沼篤夫 | 1,480 | 2.4 |

所有者別株式分布状況



株 主 メ モ

| | |
|--------------|--|
| 事業年度 | 1月1日から12月31日まで |
| 期末配当金受領株主確定日 | 12月31日（中間配当金の支払いを行う場合は毎年6月30日） |
| 定時株主総会 | 毎年3月 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 同連絡先 | 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（通話料無料） |
| 上場証券取引所 | ジャスダック証券取引所 |
| 公告の方法 | 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.cosmobio.co.jp/ |

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理人となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

○証券会社等の口座に記録された株式

| お手続き、ご照会等の内容 | お 問 合 せ 先 | |
|--|---------------------------|--|
| ■株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続き | 口座を開設されている証券会社等にお問合せください。 | |
| ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問合せ | 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 上記連絡先にお問合せください。 |

○特別口座に記録された株式

| お手続き、ご照会等の内容 | お 問 合 せ 先 | |
|---|-------------|--|
| ■特別口座から一般口座への振替請求 ■単元未満株式の買取（買増）請求 ■住所・氏名等のご変更 ■特別口座の残高照会 ■配当金の受領方法の指定（※） | 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 上記連絡先にお問合せください。 [手続き書類のご請求方法] ・音声自動応答電話によるご請求 電話 0120-244-479（通話料無料） ・インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |
| ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問合せ | 株主名簿管理人 | |

（※）特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル

Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613